

原子力利用を支える基礎基盤的能力を有する研究開発人材の育成強化

Development of Human Resources for Research and Development to Support Nuclear Energy Utilization

*久語 輝彦¹, 濱田 潤平¹, 峯尾 英章¹, 大久保 成彰¹, 高野 公秀¹,
松村 達郎¹, 渡邊 雅之¹, 岩本 修¹, 森田 泰治¹, 前川 藤夫¹

¹ 日本原子力研究開発機構

抄録 日本原子力研究開発機構が強化に努めている研究開発人材の育成に係る取組の現状を報告する。

キーワード: 人材育成, 原子力分野における大学連携ネットワーク

1. 緒言

日本原子力研究開発機構（以下、「機構」という）では、原子力利用を支える基礎基盤的能力を有する研究開発人材の育成に取り組んでいる。大学等とのさらなる連携を図るため、原子力科学研究部門が中心となり原子力人材育成センターとも協力しつつ近年強化に努めている取組について、現状を紹介する。

2. 人材育成プログラムの強化

2-1. 幅広い人材の確保&育成に係る取組

原子力と関連の薄い分野の理工学系の学生にも興味を持たせることを目的に、平成 27 年度から次の 2 つの取組を開始した。一つ目は、機構の夏期休暇実習生制度を活用して、若手職員が職場及び生活環境も含めて研究開発活動について紹介する取組である。ここでは、研究施設の運営や、原子力分野の最先端の研究やプロジェクトの紹介、施設見学等の機会を学生に提供している。二つ目は、原子力分野における大学連携ネットワーク（JNEN）の活動を活用して、「原子力研究開発の最前線」と題して、機構の最先端の研究活動を紹介する取組である。これら二つの取組について、学生へのアンケートを行ったところ、好評な結果を得ている。さらに、JNEN での活動の進展を図り、本年度、原子力を支える基礎基盤研究を中心とした専門講座（4 半期制 7 コマ）に発展させ、茨城大、福井大で開講されることとなった。

2-2. 原子力開発の面白さの体感及び研究能力の向上に係る取組

原子力利用を支える基礎基盤的能力を有する研究開発人材の育成のための取組として、原子力開発の面白さを体感させること、また、最前線の研究者とともに、機構の大型施設などを利用した基礎基盤研究を行い、研究者・技術者としての能力を向上させることを、基本的な方針と定めた。新たな試みとして、放射性廃棄物の減容化・有害度低減の研究開発に資する基礎基盤研究課題をテーマとして、5 つの特別 Gr を平成 27 年度に設置し、機構の特別研究生制度、博士研究員制度を活用し、大学院生、ポスドクを受け入れ、育成を進める取組を開始したところである。また、共同研究等の従来からの制度については、機構の施設等の研究環境を活用した、優れた教育効果をもつ共同研究等の取組強化に努める予定である。

3. 結論

研究開発人材の育成強化に係る取組の現状を報告した。本報で紹介した取組を着実に実施するとともに、取組の活性化・充実化及び大学等とのさらなる連携を図り、研究開発人材の育成強化に努める予定である。

*Teruhiko Kugo¹, Jyunpei Hamada¹, Hideaki Mineo¹, Nariaki Okubo¹, Masahide Takano¹, Tatsuro Matsumura¹, Masayuki Watanabe¹, Osamu Iwamoto¹, Yasuji Morita¹ and Fujio Maekawa¹

¹Japan Atomic Energy Agency.